

カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (社会福祉学科・介護福祉専攻)

○令和7年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

【成果・できていること】

- ・教育課程における、内容、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性などについて、全体的に適切であると判断された。
- ・個別の科目をみると、福祉経営とリーダーシップでは「当該科目が2年後期、すべての実習を終えた段階である特性をふまえ、他科目での学習内容を総括的な観点から活用できる授業内容等を検討した。加えて、対応するDPとの関係で、教育内容だけでなくケースメソッドを通じた参加方法にも留意した授業運営、評価を行った。開講時期、内容ともに現行で適切と判断する」ことが、また介護福祉論Ⅰでは「1年前期という開講時期をふまえ、隣接科目との対応関係、DPに留意した授業を実施できた。対応するDPは適切であると判断する」ことが、更に発展介護技術では「隣接する科目（及び実習）との関係をふまえて実施できた。対応するDP、開講時期ともに適切と判断する」ことが示された。

【課題・できていないこと】

- ・一部の科目においては、内容を充実させることが課題となった（例えば、コミュニケーションⅠ・Ⅱ、介護過程Ⅱ、介護福祉演習など）
- ・レクリエーションⅠ～Ⅳの改変により、令和8年度入学生から開始する「介護レクリエーションA」「同B」にDPをどのように設定するか検討が必要である。
- ・介護福祉論Ⅰでは、DP2に関連して知識定着の課題対応を目的に、記述形式の授業内課題が年々増加しており、DP1との関連では「考察する」授業も重要であるため、シラバスをもとにこれらDPのバランスについて検討する。
- ・介護実習指導Ⅰについては、介護実習ⅠB報告会の内容・方法・開催時期について再検討する。
- ・介護実習指導Ⅱについては、介護総合演習などの名称への変更を検討する必要がある（2017年のカリキュラム改正により介護総合演習に実習指導以外の内容（例えば実践研究）が位置付けられたが、本学では従前の科目名称を用いており、科目名称と内容に齟齬が生じている）。
- ・介護実習ⅠA・ⅠBにおいては、実習日程、時期、内容の適切性について再検討する。

【その他・今後の検討事項等】

- ・卒業単位の柔軟化により、DPを見直す必要性が生じた場合には速やかに対応する。